

パート1 シーン1-1 博霊神社

ここは幻想郷の博霊神社

1、霊夢が縁側でまったり(緑茶)

霊 夢「(ずずずずぞぞぞぞ〜)ふはー、今日もイイ天気」

【画像①】霊夢いい笑顔

2、そこにアリスと魔理沙

【画像②】二人でおしゃべりしながら霊夢の方へ

アリス「あ、霊夢。またサボリ？」

霊 夢「休憩中よ」

魔理沙「きっと今日は休憩の日なんだよ」

アリス「じゃあ、明日は？」

魔理沙「神社閉店の日」

霊 夢「くおら！」

魔理沙&アリス「きゃっ！」(二人で抱き合っ)

霊 夢「……あ〜、アンタたち、ホントに仲いいわね…」

【画像③】こめかみを押さえる霊夢

3、アリスがちょっと大きめのバスケットを持参中

アリス「そうそう、今日は霊夢のために、お土産を持って来たのよ！」

霊 夢「あら、ありがとう。それじゃあお茶を用意するわね」

魔理沙「霊夢う〜、特級茶葉で頼む！」

霊 夢「はいはい……⑨番茶でいいわね？」

4、三人で縁側でまったり

お菓子を手に取り、魔理沙が一口パクリと

魔理沙「やっぱアリスが作るブラウニーは美味しいな。
生地がしっとりしていて、それでいてベタつかない
スッキリした甘さだ。ココアはバンホーテンの物を使用したのかな？」

アリス「フッフ、ありがとう魔理沙」

霊 夢「ホントに美味しいわね。でも、作るのはいつもアリスね。
……魔理沙が作ったりとかしないの？」

パート2 シーン1-2 博霊神社

5.魔理沙が不満そうな顔で

魔理沙「えー？私だって作ることはあるぜ？」

アリス「あら？魔理沙が作ったお菓子なんて食べたことあったかしら？」

霊 夢「アリスが食べたことなかったら誰も食べたこと無いんじゃない？」

6.ムキになる魔理沙

魔理沙「そんなことないだろ！？この前、作ってやったはずだぜ！
ほら、この前もらったバレンタインのおか……え……」

アリス「もらったかしら？」

魔理沙「あーっ……」

霊 夢「わたしもあげたけど、お返し無いわね〜……義理だけど」

ちょっと沈黙

7、次第に顔色の悪くなっていく魔理沙

霊 夢「…魔理沙？」

アリスは落ち着いてお茶を飲ん

8、青ざめた顔の魔理沙

魔理沙「ああああああああ！！忘れてたああああ！！」

突然立ち上がる

アリス「わっ！ちょっと魔理沙！？」

突然で驚くアリス

魔理沙「ホワイトデー！ごめん！！忘れてた！
そこでだアリス！悪いがもう少しだけ、追加で待っててくれないか？待っていたらたぶん、
魔理沙さんの素敵なプレゼントが先着1名様にもれなく配られることになるはずだ！たぶん！」

霊 夢「先着1名……私には無いのね」

魔理沙「霊夢はたくましく生きていてくれ！」

霊 夢「ちょっと待て！！！」

9、すごい勢いで飛んで行く魔理沙

魔理沙「では諸君っ！さらばだー！！」

【画像④】星となって消える魔理沙

10、あっけにとられたアリスと霊夢

霊夢「恋する乙女のパワーは凄いわね〜」

アリス「え！恋なんて……そんな、もう！霊夢ったら……ばかあ〜↑」

霊夢「はいはい、ごちそうさまでした」

アリス「お粗末さまでした(ペコリ)」

霊夢「……」

アリス「……」

霊夢「あーっ……、でも魔理沙がお返しを忘れてたとはねー」

アリス「いいのよそんなこと。私は魔理沙といっしょにいてだけで幸せを感じられるんだから」

霊夢「はいはい、ごちそうさま」

アリス「お粗末さまでした(ペコリ)」

霊夢「……」

アリス「……」

萃香登場(障子の影からズイット)

や 萃香「霊夢う〜、客か？」

霊夢「アリスよ」

アリス「萃香、こんにちわ。よかったらこれどう？」
(ブラウニーを見せる)

や 萃香「イカシミ焼き？」

霊夢「お菓子よ！この酒飲みが！」

アリス「はい、萃香☆」(食べさせてあげる)

や 萃香「(ハグ)あっ……まい！！」

霊夢「お菓子だからね」

アリス「はい！霊夢も」(食べさせてあげる)

霊夢「えっ！？わっ、ちよっ……(はぐ)」

「……おいしい」

「じゃあ、アリスにも。(クイツ)」

アリス「(はぐ)うんぐっ！……じゃあ、霊夢にもう一回〜(ニヤニヤ)」

や 萃香「わたしも食べさせる〜！」

霊夢「おまえら……」

11、少女移動中...(魔理沙が飛んでる、空がふよふよ画像)

→紅魔館へ

や 1、門の前でチルノ「あたー」と
ルーミア「そーなのかー」
が輪を描くように走り回り(はしゃいでいる)
大妖精がニコニコとそれを見ながら、紅美鈴とお話している。

大妖精「隣の垣根に囲いが出来たんですって！」
紅美鈴「へー」

そこに咲夜さんが登場

咲夜「お仕事の最中におしゃべりとは、ずいぶんと大層な御身分ね～？↑」

目は笑っていない

大妖精「あっ！……とっ、どうも(ぺこり)」
あせあせ

紅美鈴「……さっ咲夜さん！！……やっ、その、え～とですね……
そう！門の中には進入させていません！」
あせあせ

咲夜「そう、仕事は全部していると言う訳ね」
無言で見ないで上空を指差す

空から紅魔館にすっ飛んで入っていく魔理沙。

紅美鈴「……進入させていただきました～」

無言でナイフでサクッとされる紅美鈴

おろおろする大妖精と、まだ走り回っているチルノ&ルーミア

パート4 シーン2-2 ヴァル図書館(紅魔館)

2、紅魔館図書館

咲夜「なにか作るのかしら？ 貸すのはいいけど、さすがに厨房はあとで返してね」

魔理沙「よー、パチュリー！遊びに来たぜ！」

や パチュ「ゲホッ、ゲホッ…あなたはいい加減、ドアから入って事を覚えなさい」(煙でむせてる声)

魔理沙「それで……今日は本を借りに来たんだ」

や パチュ「ギャー！！もってかないでー！」

魔理沙「大丈夫！ちょっと借りるだけだ」

や パचे「借りる？盗むの間違えじゃない？」

魔理沙「いや返す気はある」

や パचे「気だけでは返ってこないわ」

魔理沙「気持ちだけでも受け取ってくれ」

や パचे「モノをよこせ」

魔理沙「現金だなーパチュリーは」

無言で指をパチンするパचे

とたん飛んで来るナイフ

魔理沙「うおっ！」

一拍おいて

咲夜「魔理沙、また泥棒に来たの？」

魔理沙「よう咲夜！今日も素敵なお品をありがとう！」

ナイフをヒラヒラさせてる魔理沙

咲夜「あなたは相変わらず騒々しいわね～」 ため息

ため息と合わせて、息づかい(走ってきたような)

小悪魔「はあはあ……、パ、パチュリー様。また魔理沙さんが、やらかしたんですか！？」

や パचे「その言い方だと、漏らしたみたいね」

魔理沙「わたしは子猫じゃないぜ！」

小悪魔「それは大変失礼しました(ペコリ)……
じゃなくて！魔理沙さんいい加減壁を突き破ってくるのやめてくださいよう！」

魔理沙「そうだ咲夜、あとで厨房貸してくれないか？」

小悪魔「って魔理沙さん全然わたしの話聞いてないし。わたしイジケちゃうし」

パート5 シーン2-3 紅魔館(厨房)

魔理沙「ああ、アレはわたしのポケットには、ちょっと大き過ぎるからな」

や パचे「あっ！（ポン）、本をデカくすれば盗まれない？」

小悪魔「そーいう問題ではありません！」

咲夜「……で、アリスかしら？」

魔理沙「いや……まあ……そう、アリスに、美味しいお菓子をプレゼントしようと……」

や パचे「あら、あなたにも可愛いとこ、あるのね」

魔理沙「可愛いのか？」

や パचे「うん」

魔理沙「照れるぜ」

咲夜「わたしも作ろうかな」

魔理沙&パचे&小悪魔「え！？」

小悪魔「えーと、お嬢様にでしょうか？」

咲夜「さて、誰のでしょうね～」
ニヤリとしながら扉の方を向く

咲夜「というわけで、一緒に作りましょうね、魔理沙☆」

魔理沙「ええっ！いい、いいよ！ひとりで出来るって！」

咲夜「あなたただだと、料理が出来ても厨房が大惨事になりそうだから」

や パचे「うんうん、まさに推して知るべしね」

小悪魔「あの～、私も一緒にしてよろしいですか？」

咲夜「パチュリー様に？」

小悪魔「えっ！……は、はい！」

や パचे「小悪魔のお菓子は好きよ。やさしい味がするから」

小悪魔「はい！！精一杯がんばらせて頂きます！」

魔理沙「厨房には女3人……女3人で姦しい(かしましい)ってヤツだな」

や パチュ「魔理沙……あなた意味を分かって言っているの？」

魔理沙「知らん！」

咲夜「いばるな！」

咲 夜「で、魔理沙は何を作りたいの？」

魔理沙「そーだなぁ～(本をペラペラめくり)
このクレープ・マリエットってヤツにしようかな」

咲 夜「アンタねえ……
お菓子作り初級者が、そんな難しいの作ろうとしたら、どうなるか分かる？」

魔理沙「そんなもんか？うーん……じゃあこのクッキーは？チョコクッキー」

小悪魔「(ひよい)へ～、プレーンクッキーにチョコソースを付けるのですか」

魔理沙「ああ、チョコで顔とか描いたりな」

小悪魔「あ、それ面白そうですね」

咲 夜「そうね、それくらいが妥当かしら」

6.厨房にて

咲夜さん、冷蔵庫開けてみる

咲 夜「…あら？」

魔理沙「ん？どうした？」

【画像】:戸棚等を開ける咲夜さん

咲 夜「おかしいわね……」

小悪魔「どれどれ？(ひよい)
あーこれはこれは」

魔理沙「だから、どうしたんだよ？(魔理沙もひよいと)
あっ……」

一瞬の沈黙

咲 夜「チョコが無い」
小悪魔「タマゴも無くて」
魔理沙「作れない……」
(五・七・五調で☆)

魔理沙&咲夜&小悪魔「ああ～あ↑」(落胆の声、三者バラバラでも良い)

【画像】3者の顔(落胆)→天井→3者の顔(悩んでる)

パート6 シーン2-4 紅魔館(厨房)

7

レミリア「あら？三人そろって珍しい」

ふらっと厨房に現れるお嬢様

咲 夜「あ、お嬢様。いえ実は、クッキーを作ろうとしたら材料が無くて困ってたんですよ」

魔理沙「まったく品揃えの少なさにビックリだぜ」

小悪魔「魔理沙さん、うちはお菓子材料の店ではありませんよ」

レミリア「ああ、材料が無いっていうのは、私とフランで使ったから無いのよ」

咲 夜「え！？お嬢様は料理をされるのですか？」

レミリア「私じゃなくて、フランがどうしても作りたいて言うから。
わたしは現場責任者として居ただけよ」

咲 夜「それで出来たものは？」

レミリア「無いわ」

魔理沙「つまり無を生み出したワケだな」

小悪魔「魔理沙さん、深いですね～」

レミリア「深くはなくて、浅いわよ。結局散らかして、片付けて終わりよ」

魔理沙「遊んでポイか」

咲 夜「もー、食べ物に粗末にしないで下さい」

レミリア「フランに言って！」
退散するレミリア

パート7 シーン2-5 紅魔館(厨房)

8

咲 夜「あ～しょうが無いわね～」

魔理沙「どうする、材料がないとクッキーが作れないぜ？」

小悪魔「そうですねえ……」

【画像】厨房にいる3人の立ち絵(小悪魔を真ん中に 右側:魔理沙 左側:咲夜さん)

咲夜「よし、魔理沙。材料の調達をしてきて」

魔理沙「さて咲夜、お前も一緒に来い」

咲夜「わたしは適任ではないわ」

魔理沙「なぜ私だけなんだ？」

咲夜「魔道シーフだから」

魔理沙「お前も盗んでたどろ。ロケット作るのに、うちに忍び込んで八卦炉を取ろうと。得意の手品を使うんなら、私より適任だ」

咲夜「逃げ足で言えば、魔理沙が最速で適任よ」

小悪魔「あの～、盗むの前提なんですね～」

魔理沙「払ったら負けだ」

小悪魔「たまには負けましょうよう～」

咲夜「ふむ、私も同行しましょう」

魔理沙「どうした？」

咲夜「あなたの負ける姿が見たい」

魔理沙「私は負けない！！」

小悪魔「それは結局、盗むということじゃあないですか～」

パート8 シーン3-1 人里

10.人里へ(店)

店から出てくるアリス

アリス「あら？魔理沙と咲夜？」

魔理沙「買ったのではなく、産みたてなんかどうだ？」

アリス「誰が産むの？」

咲夜「魔理沙が産むの？」

咲 夜「こんにちわ、アリス」

魔理沙「あれ？霊夢のどこにいたんじゃないのか？」

アリス「二人とも酔って寝ちゃったから」

魔理沙「なんで緑茶飲んでて、酔っ払うんだ？」

アリス「萃香がいたから」

魔理沙&咲夜「なるほど、飲んだのか」

アリス「ふたりは、お菓子の材料買いに来たの？」

魔理沙「そーだが、ココはアリスのよく来る店か？」

アリス「そうよ、大抵のモノが揃うからね」

魔理沙「そーなのかー……う〜ん」

咲 夜「何かまずいの？」

魔理沙「美味しいものを作ろうとしているが……ちょっとまずいな」

咲 夜「まずいのはダメね」
悩むポーズの咲夜

注記：魔理沙(悩んでる)、咲夜(悩んでるフリ)、アリス(それを見ている)

魔理沙「アリスには今まで食べたことの無い味を堪能してもらいたいんだ」

咲 夜「なるほど！ここのお店の味は、アリスは知ってるわけね！」

アリス「店の味って……材料屋だけ……」

咲 夜「全部じゃなくても、どれか1つでも奇抜な材料があればいいんじゃない？」

アリス「……その、奇抜な食材を食べるのは私なんだけどー」(嫌そうな顔)

魔理沙「あ、そうだ！」

咲 夜「どうしたの？」

魔理沙「タマゴも無かったよな？」

咲 夜「そうね」

魔理沙「私は鳥ではない。だが、鳥の知り合いはいる」

咲 夜「夜雀(よすずめ)ね！」

アリス「ちよっ！食材の出所は知っときたいから、私も付いてく！」

パート9 シーン3-2 ヒマワリ畑

11
ミスティア「ぎゃーっ！！」

魔理沙「待てーっ！！」
魔法弾。ミスティアの横をかすめる(数発)

魔理沙「咲夜！」

瞬間、咲夜の姿は、幽香の後方へ

咲夜「はい、タネ無し手品でございま〜す」
両手を広げると、周囲に無数のナイフ

咲夜「おとなしく卵を産んでくれれば危害は加えないわ！」
ナイフ投げ

ミスティア「無理無理無理っ！産めない！というか危害すでに加えてるじゃないかー！」
泣きながら逃げ回る

アリス「……」
完全にあきれてる表情。

いつの間にか、周囲にひまわりが咲いている。

魔理沙「ちょこまかと！ええい！！マスタースパーク！」

ちゅどーん！

一瞬の沈黙

周囲に煙→シルエット→幽香

幽香「あらー？面白い花火を上げる輩(やから)がいると思ったら……懐かしい顔ね」

魔理沙「なっ！？幽香」

アリス「魔理沙！」
抱きつくアリス

咲夜「どうやら、厄介なところに紛れ込んだようね」

ミスティア「ひーーーーーーーーーーーーっ！！」
逃げて行くミスティア

【画像】背景に、メディスンもいる

幽香「お久しぶり、魔理沙。どこで、
(傘で黒くなった場所を指す)
あれが何か説明してくれない？」

魔理沙「(咲夜、アリス)」小さな声で
咲夜「(うん、わかった)」小さな声で
アリス「(みんな無茶しないで)」小さな声で

幽香「どうしたの？答えられないの？
なら……
(一気に傘を振り上げる)
答えられるようにして挙げるわ！！！」

咲夜「幻在「クロックコープス」！」

幽香「フン」
日傘を広げ、すべてガード

直後すぐに、
魔理沙「恋符「マスタースパーク」！」

画面が白色
晴れると幽香

幽香「あらハズレよ」
にっこり
幽香「お返し、マスタースパーク」

魔理沙「うわあああああああつ！！」

アリス「魔理沙あああああつ！！」

画面暗転

パート10 シーン4-1 紅魔館(厨房)

魔理沙「う、う～ん……アレ？ここは？」

アリス「魔理沙！？」
アリスが膝枕していた

小悪魔「気付かれたんですか？」

小悪魔「びっくり？」

魔理沙「危険そうな……」

アリス「なんでも……5個中、1個がハズレだって」

小悪魔「こわっ！？」

咲夜「おはよう魔理沙」

魔理沙、アリスの頭をなでながら、周りを見て

魔理沙「幽香は？」

咲夜「花畑を荒らしたのは私たちです。ごめんなさい。と言ったら許してくれたわ」

魔理沙「そーか……うん、よし！次は勝とうぜ！」

咲夜「何気にタグを組もうとしないで」

アリス「そうよ！もう危ないからやらないでね！」

小悪魔「そーですよー、もしリベンジするにしても、私は巻き込まないで下さいね〜」

魔理沙「お前には100年早い」

小悪魔「ひどっ！」

魔理沙「アリス……、そーだな、自重するよ」

アリス「うん！」

咲夜「それでは、お菓子作りを始めましょうか」

小悪魔「そーですね」

魔理沙「というわけで、プレゼントされる人は出てって下さい」

アリス「はい！……あ、出て行く前にコレを！」

(5個のたまごの入ったバケツを渡す)

魔理沙「これはどうしたんだ？」

咲夜「気絶したあなたを連れ帰る途中で、蓬莱人に会ったの」

魔理沙「永琳？」

咲夜「そう、たまごを探してるって事情を話したら、恵んでくれたのよ」

小悪魔「永琳さんのたまご？大丈夫ですか？」
(不安そうな小悪魔)

アリス「地獄カラスのたまごinビックリセット！だって」

パート11 シーン4-2 紅魔館(厨房)

13.料理中

小悪魔「魔理沙さん、お湯ください」

魔理沙「おう、粉と混ぜるのか？」

小悪魔「混ぜないで下さい！！バターを湯せんするんです！」

魔理沙「ハズレはどうなるんだ！？」

咲夜「割ってみてからの楽しみね」

(不自然な真っ黄色な黄身)

魔理沙「それは大丈夫なのか？」

咲夜「味見したら？」

小悪魔「(混ぜながら)怖くて出来ません！」

咲 夜「天ぶらじゃないんだから」

魔理沙「クッキーの天ぶら？」

小悪魔「気持ち悪いです」

咲 夜「じゃあ、わたしはチョコを溶かしておくわ。魔理沙、こっちにもお湯」

魔理沙「よっしゃ！」

咲 夜「だからお湯を入れるな！」

【画面反転】

小悪魔「で……でわ、たまごを入れます」

魔理沙「ドッキドッキ」

咲 夜「ごくり」

小悪魔「ここは思い切って……えい！」

(パリッ)

ちゅど—————ん！！

周りに真っ赤な霧

小悪魔「ゲホゲホガハゲホッ！」

魔理沙「ぐえ————、か、辛い～～～っ!？」

咲 夜「けほけほ……からしの～霧～↑」

魔理沙「ひっどいぜ(げほげほ)」

小悪魔「ギャー、目が～目が～」

【画面反転】

小悪魔「では気を取り直して、他のたまごを入れます」

パート12 シーン4-3 紅魔館(厨房)

魔理沙「お湯はいらんか～？」

小悪魔「もー入りません！」

魔理沙「ケチー」

へらでボウルの中身を混ぜながら、魔理沙に文句

咲 夜「魔理沙、オープンの用意！」

【画面反転】

アリスとパチエが仲良く読書

(アリスの顔を見るばちえ)

アリス「なによ？顔に何か付いてる？」

や ばちえ「な、なんでもない(アセアセ)」

や ばちえ「(死相が見えた気が……)」小声で

【画面反転】

(くるくる～ダイヤモンド～♪)

や チルノ「魔理沙、あたいは何をするんだ？」

咲 夜「なるほど」

小悪魔「冷えたら美味しそうですね」

魔理沙「おう！」

八卦炉を暖炉にかざす。

【画面反転】

トレイに並ぶ、無数のハート型のクッキー

魔理沙「さて、嬉し恥ずかし、チョコ落書きタイム！」
こぶしを振り上げる

小悪魔&咲夜「おーっ！」
こぶしを振り上げる

魔理沙「さて、何を描こうか？」

咲 夜「オーソックスに、愛の言葉とかどう？」

小悪魔「『君の瞳に映る、わたしが美しい！』というやつですね」

咲 夜「ただのナルシストね」

魔理沙「え〜と……『好きだよ』」

咲 夜「わたしは顔を描くわ」

小悪魔「あっ！わたしもパチュリー様を描く！」

魔理沙「あっ！ちよっ！？それならわたしもアリスだ！」

小悪魔「そーいえば、チョコで描いても、固められなかったら、ベタベタなままですよ〜」

咲 夜「時を止めて凍結する？」

魔理沙「そしたら破壊不可能なクッキーになるぞ」

小悪魔「硬度10以上の難攻不落のクッキーですか！？」

魔理沙「それではヤバイのでこれを使う」

机の影からひょいと掴み上げる

パート13 シーン4-4 紅魔館(厨房)

14.そしてついに完成！！

魔理沙「よっしゃああ！完成だぜ！」

咲 夜「うん、上出来！」

小悪魔「魔理沙さんおめでとうございます！」

みんなでパチパチ拍手

慌てて受け取る小悪魔

や パチェ「本は大事に扱って！」

小悪魔「返すなんて珍しいです。感謝の気持ちですかね？」

咲 夜「も一料理する気が無いだけかも。爆発したり、死に掛けたり」

や パチェ「危険ね」

や パチェ「騒がしいと思ったら、やっと完成したようね」

小悪魔「あ！パチュリー様！そうです！出来たんです！だからコレを！」
ズバツ！とクッキーを乗せたお皿をかざす。

や パチェ「わっ！わたしの顔！？」

小悪魔「そーです！」

や パチェ「うまく描けてるわね」

小悪魔「ありがとうございます！」

一つ摘んで、
小悪魔「わっ！？」

食べて、
や パチェ「うん、美味しいわよ、小悪魔」

小悪魔「あ……美味しかったですか」

咲 夜「食べても大丈夫みたいね」

魔理沙「これで安心だぜ」

や パチェ「……何やら不安な会話が……」

魔理沙「パチュリー、アリスはまだ図書館か？」

や パチェ「あー、少し焦らすのもいいかもねって、博麗神社に行ったわ」

咲 夜「逃げたのかしら？」

小悪魔「食べても大丈夫だって伝えないと」

魔理沙「そうだな！行ってくる！」
駆け出す魔理沙

魔理沙「いろいろアリガトなー！」
遠くから本を投げる

小悪魔「普通、料理で命に危機は訪れません！」

パート14 シーン5-1 上空

15.魔理沙超高速で移動中。その進路上にナゾのシルエット

魔理沙「そーこーをーどーけーっ！」

お 空「うにゅ？」

ドカーン

魔理沙「いててて、どけて言ったらろ空……」

お 空「いたたた、どけと言われてどくヤツがあるか！？」

魔理沙「普通はどくぞ」

お 空「知らない」
バタバタ飛んでく空

魔理沙「なんなんだー？↑」

魔理沙「うん？」
手荷物を確認してる魔理沙

魔理沙「……あっ」

【画面暗転】

パート15 シーン5-2 博霊神社

霊 夢「お、来たみたいね」
空を見上げている

アリス「うふふふふっ」
ニヤけるアリス

魔理沙「……アリス～」
困った顔の魔理沙

霊 夢「おや？」

アリス「どうかしたの？」

魔理沙「あんぐっ、おいひい」

アリス「おいしかったんだ！」

魔理沙「うん！おいしいよ！」

アリス「じゃあ、わたしも食べて平気だね！」

魔理沙「……」

アリス「……」

魔理沙「これ……」
包みを開ける。
中には割れたクッキー

霊夢、一つ摘み上げて
霊夢「ハートが見事に割れてるわね」

魔理沙「ごめんな、こんなプレゼントで
しゅん、となる

魔理沙「ハート形がんばったんだけどね、ハートのクッキーを、アリスに食べさせたかった……」

霊夢「魔理沙……」

アリス少し考え込み、
アリス「……魔理沙」

魔理沙「うん？」

アリス「これ持って」
魔理沙の絵が半分に描かれた、ハートの片割れを持たせる

魔理沙「お、おう」

アリス「それとこれ」
アリスの絵が描かれた半分

アリス「ね、こーして合わせると」

魔理沙「あは、はーと☆」

アリス「ほら、全然壊れてないよ。魔理沙の気持ち」

魔理沙「ありがとう、アリス！」

背景に、なみだぐみながら、ウンウン言ってる霊夢

アリス「じゃあ、がんばったご褒美！」

魔理沙に食べさせる

魔理沙「わたしで毒見させるな！させるなら霊夢にしろ！」

霊夢「待てコラガキ！」

アリス「アハハハハハハ☆」

魔理沙がアリスにクッキーを食べさせてる絵

パート16 シーン5-3 紅魔館門前

18.ED後

紅魔館

立ったまま居眠りしてる美鈴

美鈴「ゲーゲー」

さくっとナイフが刺さる

美鈴「ギャー！」

暴れまわる美鈴

咲夜「あっ……」

美鈴「お返しです」

一瞬、驚いた顔
後、赤らめた優しい表情で、

咲夜「うん、ありがとう」

END

咲夜「寝てるな！」

美鈴「ごめんなさいー」

咲夜「どーして寝てるのかしら？」

美鈴「ごーめーんーなーさーいー」

咲夜「門番の仕事をちゃんとやりなさい」

美鈴「はい！がんばります！！」

咲夜「これからがんばってくれるのね？」

美鈴「はい！」
敬礼！

咲夜「じゃあ、がんばってくれるんなら、」

言って、手に持ったクッキーを1つ、美鈴の口に入れる

美鈴「はぐっ……」

咲夜「プレゼント」

美鈴「……おいしい」

咲夜「そう、よかった☆」

一拍おき、

美鈴が、咲夜を見つめて、

美鈴「咲夜さん、すみません」

咲夜「なに？」

咲夜が言った瞬間、ほっぺにKISS